

現代英語の語法観察（４）

英語科 八幡成人

0. 私たちの『ライトハウス英和辞典』の校正刷の中に、I haven't seen you *for ages* [*an age*] という用例が見られ、それに対してボリンジャー博士は、単数形は用いないと明言された。イルソン博士も、次のような容認度判断をなされた。

I 've been waiting *for ages*./ **for an age*.

I haven't seen him *for ages*./ *in ages*./ **for an age*.

in ages は、**I have seen you in ages*./ **I've been waiting for you in ages*./ I haven't seen you *in ages*. というボリンジャー博士の判断からも分かるように、否定文で用いる表現である。今でも英和辞典に見られる *for ages* [*an age*] といった示し方や、*for ages* = *in ages* という安直な見出しの立て方が、いかにナンセンスなものであるかがお分かりいただけよう。

八幡（1996, 1998, 2010）において、辞書編集者の立場からいくつかの言語事実を掘り起こしてきた。今回も引き続きそのような取り組みを報告する。38年間の教員生活を振り返って、「活動一覧」を巻末に掲載した。今後も引き続き、「チーム八ちゃん」(<https://teamhacchan.wordpress.com/>)のブログにおいて発信を続けたい。

1. *naked* / *nude* 「裸の」

nude という語に「裸の(*naked*)」などと安易に示す英和辞典があるが、私たちの『ライトハウス英和辞典』（第6版）には、次のような【類義語】が見られる。下線部分に注目。

naked 他人に見られないような場所で、体に覆いや衣服を着けていないことを意味する。 ***nude*** 人の裸についてだけ用いる。*naked*と異なり、絵画のモデルのように人に見られることを前提としている。

この記述は、1978年に出た *The Random House Dictionary* (Ballantine Books \$1.95) [RHP] の定義を参考に書かれたものである(下線部注意)。

naked : without clothing or covering on the body, usually when not supposed to be seen as such for some reason

nude : completely unclothed, as a person or the body, usually when supposed to be seen as such for some purpose

両者の差異をこのような形で明示的に示したのは、この辞典が辞書学史上初めてのことであった。1977年1月15日にCBSテレビで放映された"Bob Newhart Show"という番組で、精神科医である Bob が、全裸の会員が参加する性の研究会に行って講演をするから、妻の Emily に一緒に行かないかと勧める。彼女は行かなかった。講演会を終えて Bob が帰宅すると、次のような対話が二人の間で交わされる。

Emily : "Were you *naked*, Bob?"

Bob : "No."

Emily : "Were you *nude*?"

Bob : "Yes."

この会話は、両語の区別が分かっていないとその妙味を味わうことはできない。⁽¹⁾ この定義を書いたのが、この辞典の実質上の編集長(Executive Editor)である P.Y.Su 氏であった。この RHP はもちろん *The Random House College Dictionary (Revised Edition)* が親本だが、大多数の新語・新語義は言うまでもなく、1 万箇所に渡る定義の書き直しや改訂・改良が加えられた画期的なペーパーバック辞典と言ってよい。発刊以来 3 ヶ月も経たないうちに 100 万部以上売れたのもうなずけよう(通常なら 1 年以上はかかる)。baggage/luggage の微妙な区別なども、この辞典ならではの記述である。P.Y.Su さんが英語のネイティブ・スピーカーではないことが、アメリカ人が普通気がつかないポイントまで明らかにすることができた理由と考えられる。Su さんとは長い間親しくさせていただき、疑問点にお答えいただいたり、種々の資料の提供を受けた。来日される度に、定宿の帝国ホテルのお部屋から、貴重なアメリカの辞書事情を長電話でご教示いただいたのもいい思い出である。感謝申し上げたい。写真は松江においてになったときに、そばをご一緒したときのもの。



2. A rolling stone gathers no moss. 「転石苔むせず」

教員に成り立ての若い頃、表記のことわざ「転石苔を生ぜず」に二通りの解釈が存在するということがよく話題になっていた。すなわち (A)「落ち着きなく転居や転職を重ねて動き回っていると財産も地位も身につかない」(悪い意味)と (B)「常に活動的に動き回っているものはいつまでも古くならない」(良い意味)と、+-全く正反対の意味に取られるというもの。同じ表現でも、「苔」の解釈一つで、これほどまでに受け止め方が異なるものか、と面白く思ったものだ。⁽²⁾ 当然、この問題はさまざまな研究書に取り上げられ、(A)はイギリス古来の解釈、(B)はアメリカの新しい解釈、という扱いが一般的であった。いくつかの学習辞典の扱いを見ておこう。

◎「職業や住居をしばしば変える人は、金がたまらず、友人ができない」の意味だが、転職や転居に違和感をもたない人々の間では「活動的な人はいつも清新である」という解釈も一般的。【スーパーアンカー】

◎「職業や住まいを転々と変える人は金がたまらず、友人もできない」と「常に活動的な人は新鮮である」との両方の意がある。【ウィズダム】

◎このことわざの本来の意味は、職業を変えてばかりいる人には金はできない、落ち着いて身を固めないと家庭の幸福は得られない、相手を変えてばかりいては本物の愛は手に入らないということ。「常に活動している人は沈滞しない」と、最近ではよい意味でも用いられる。

【ユースプログレッシブ】

◎「職をよく変える人は成功し[金持ちになれ]ない」という「忍耐」を尊重するのが本来の意；《米》では「活動する人は常に新鮮である」の意でも用いる。【ジーニアス】

しかし、A=イギリス用法、B=アメリカ用法、といった割り切り方は危険である。こ

の二つの解釈に関して、R. イルソン博士（ロンドン大学）は、興味深い事実を教えてくださいました。⁽³⁾ ロンドン大学のスタッフ（The Survey of English Usage）の中で、40歳以上の人たちは（A）の悪い意味に取り、40歳以下の人たちは（B）の良い意味に解釈するという傾向が見られた、というのだ。少なくとも、イギリスでも両方の意味が存在しており、若い人たちの間では、（B）の良い意味の方が一般的という結論である。若い人たちの間でも（A）の悪い意味も消えてはいないとのことであった。

今度は、アメリカでの実態を、J. アルジオ博士（ジョージア大学）に聞き取り調査していただいた。被験者は60人（大学教授、大学院生、英語専攻大学4年生）。⁽⁴⁾

- (a) People who often move or change jobs will never succeed.
- (b) Active people don't become bogged down or old-fashioned.
- (c) People who constantly move go through life without incumbrances.

それによると、(a)と解答した人は15%、(b)または(c)のいずれかと解答した人は85%（(b)と(c)はほぼ半分ずつに分かれた）であった。アルジオ博士ご自身も、"If you stay active doing things, you won't get bogged down or become set in your ways" "If you keep up with things around you, you won't get left behind by changing conditions."という良い意味の解釈しか知らない、と答えられた。本校のALTチェルシーさんも、良い意味に受け取ることであった。ジョージア大学の同僚に諺の専門家がおられ、文献を教示していただき、もともとの悪い意味は英語本来の用法であり、良い意味はスコットランドの用法であり、その影響とのことであった。⁽⁵⁾

というわけで、私たちの『ライトハウス英和辞典』（第6版）では、「以前は「しばしば職業や住居を変える人は成功しない」という意味に使われていたが、最近では「活動している〔飛び回っている〕人はいつも清新である」という意味に使う人が多い」という説明に落ち着いたのであった。

3. 副業 = a side job ?

今でもなお多くの英和辞典、和英辞典に載っている（アドバンストフェイバリット、ウィズダム、ユースプログレッシブ、ジーニアス、アクティブジーニアス、グランドセンチュリー、スーパーアンカー等）、「副業、アルバイト = a side job」という記述は、正しいのであろうか？私は『ライトハウス英和辞典』の改訂作業の中で、このことを調べたことがある。結論的には×である。

*That professor has *a side job*.

That professor has *a job on the side*.

アルジオ博士は「意味は分かるが、自分で使うことはない。その表現を聞いたらちょっとビックリするかもしれない。普通の表現ではない。a job on the side/ a second job/ a second part-time jobなどが正しい表現。英語として普通の表現は、He is *moonlighting*. (=He has a second job in addition to his main one.)である。」と述べられた。イルソン博士は、この表現を誤りと断定した。「ただし、臨時語として **side job** が時に使われることはあるかもしれない。おそらく **sideline**（副業）の影響だろうが」と述べられた。このような反応から、学習辞典からは削除すべき語法だと考える。

ここで面白いのは、『グランドセンチュリー英和辞典』（三省堂）では、**a side job**（副業）を収録しているのに、同じ三省堂の『グランドセンチュリー和英辞典』では、「副業（**have**）**a job on the side**（★× **a side job** とはいわない）」と、全く相反する記述をしている点に注目したい。良きも悪しきも編者の腕次第、同じ会社の中でも連携は少ない、といった辞書づくりの閉鎖的世界の実態を垣間見せてくれる好例である。

4. Information 「番号案内」

I got your number from *information*. [Longman Handy Learner's Dictionary of American English]

"I was given your name by Kimbberly Steffer, and got your number from *Information*," I said.— J.Fletcher, *Martinis & Mayhem*.

上記のような「番号案内」の意味の **information** の使い方に関して、編集委員のアメリカ人教授が「数年前から **Information** は使われておらず、今では **Directory Assistance** と呼んでいる」という指摘をされた。このような **information** はもう使われていないのか？という点が気になった。アルジオ博士にこの点をお尋ねすると、（１）一般的な用法と公式の用法とでは差がある場合がしばしばある、（２）全米でもいろいろな電話システムが施行されており、呼び方にもいろいろある、という一般論を断られた上で、自分は人々はまだ一般には **Information** を使っていると思う、とのことであった。博士の地域では「4 1 1」が番号案内で、料金は30セント、長距離では場所・時間により料金はさまざまのことであった。ついでにイギリスでは、イルソン博士によれば、**Directory Enquiries** と呼び、番号は「1 9 2」（料金は20ペンス）、海外は「1 5 3」（料金は55ペンス）とのことであった。2003年8月24日からは、競合会社の参入により、「1 1 8 5 0 0」「1 1 8 8 8 8」「1 1 8 1 1 8」の3種類が市場の9割を占めるにいたった。⁶⁾

5. joke town 「冗談の的になる街」？

joke town という単語は「よくからかわれる町[都市]」（小学館英和中辞典）という意味だが、今から22年も前の1993年12月に『小学館ランダムハウス英和大辞典』（アメリカのランダムハウス英語辞典の日本版、第二版）が登場した際に、これを「冗談の的になる町 ▲東京でいうと名古屋, Los Angeles ならば Burbank など.」（下線部筆者）と書いたものだから、愛知県の高校の先生がかみついて大騒ぎになった単語である。訴えによれば、「名古屋の風習や名古屋弁がテレビなどで、おもしろおかしく取り上げられることに目くじらを立てるつもりはないが、学問的権威のある辞典が名古屋を嘲笑の的と見下したように解説するのは見過ごせない」と、名古屋を笑い物にするとは何事だ！と抗議をした。さらには「笑いの種にされて黙っているのか」と名古屋市にも抗議するよう申し入れた。「テレビや小説などで名古屋の悪口を言うのはいいが、辞書は一国の学問水準を示すもの。悪口を言う媒体ではない。名古屋市民を不当に侮辱している」とも。小学館側によれば、**Burbank** はロサンゼルス郊外の町で米国の芸能人がロスと比べて「何の変哲もな

い町」とジョークの種に使うこともあるという。⁽⁷⁾同社の樋口伸也辞典第二編集部長は「ジョーク・タウンとはユーモアと親しみを込めて使う言葉で、決して侮辱する意味はないが、文化背景の違う日本の町を例にしたのは誤りだった」として、第二刷以降は、「名古屋」の記述は削除することとした。「ジョークタウンは"芸能人がジョークの種にする町"といった客観的な現象面を指す言葉。主観的な侮辱の意志がこもったものではない。しかし、よりよい辞書をつくるため、こうした指摘は積極的に受け止めたい。」「名古屋を軽べつする意志はなかったが、具体的な都市名を挙げたのは配慮に欠けた。当方のチェックミス」と返答した。マスコミでも大きく取り上げられ、大騒ぎになったこの語だが、「話題になりこそすれ、名古屋のイメージが傷付くというほどの事でもなく、大まじめに受け止めなくてもいいのでは」という反応もあったことを付け加えておく。

実はこのランダムハウス、アメリカでも一悶着あった辞書である。アメリカの辞書の老舗といえばメリアム・ウェブスター、そのウェブスターの名前を自分の辞書の中に使い、ジャケットをウェブスターそっくりの赤に白字でやってしまったものだから、メリアム・ウェブスター側が激怒して訴訟に持ち込んだ。一年ほどすったもんだして、結局他社のものと紛らわしい装丁をしたとして、著作権侵害でランダムハウス社が敗訴、20億円の罰金を取られたという顛末。当時、ランダムハウス社に勤めておられた私の友人 P.Y.Su 編集長が「八幡さん、この辞典の初版は（定価は20ドルでした）いずれ高い値がつくから大切に取っておくように」と、2冊プレゼントして下さったのもいい思い出。私は封も解かずに大切にしまっているのだが、さて、いくら値がついているんでしょうね？

6. lover 「愛人」

この語に対して、未だに次のような時代錯誤も甚だしい記述をしている英和辞典がある。

愛人, 恋人 (通例性的関係があることを意味する; 特に女性からみた男性の恋人をいう) [アドヴァンストフェイバリット]

恋人, 愛人 ((男性)) [ジーニアス、プラクティカルジーニアス]

愛人 ((特に男性)) [グランドセンチュリー] (下線筆者)

これらの記述が時代遅れなものであることは、私のご意見を伺った英米の辞書編集者・識者の反応からも明らかである。何とこのご意見は今から20年以上も前のものである。

▶ Jonathan Crowther (オックスフォード大学出版局)

一般に言って **lover** が女性より男性の方を指すことが多いのは事実である。しかしながら意味は文脈の中で決定されるものであるから、女性を指すことも十分可能である。lovers は男性同士、女性同士、男女にも使われる。さらにアメリカ英語では親愛の情を込めて使われることもある。

▶ Michael Swan (Practical English Usage の著書)

イギリス英語では、文脈がなければ男性を指すと取られるだろう。同様に性的関係を含む。

▶ Roy Copperud (American Usage and Style : The Consensus 著者)

lover は男性に用いられる事の方が多いだろうが、女性に使っても正しい。She was his lover./ They were lovers. 文脈がなければ **lover** は男性を指すのかもしれないが、決定的なものではない。同姓愛者にも用いられることから事態はさらに混沌としてくる。女同士、

男同士のカップルは **lovers** と呼ばれる。

▶ **Sanford E. Marovitz** (Kent State University 教授)

通例伝統的には男性を指す言葉である。しかし、女性進出のこの時代では、女性に用いることも時にある。

▶ **Cynthia A. Barnhart** (*World Book Dictionary* 編集者)

女性に **lover** を用いることは予想以上に頻繁に用いられている。アメリカ英語は、用法の性差別色を払拭するために多くの変化が起こってきた。はっきり言われなければ、多くの人は男性と受け取るだろう。しかし **lover** を男性と想定することは現代ではもはや確定的なこととは言えず、文脈が必要であろう。

Howard(1985)の観察するように、現代においては「男女いずれにも用いられている」というのが実態であろう。本校の ALT チェルシーさんは、**lover** という語を聞いて、男性・女性どちらを思い浮かべるかとの筆者の質問に答えて、"Both." (両方) とすぐさま反応した。

愛人, 恋人 (語法) 男女どちらにも用いるが、不倫の関係にある愛人を指すことが多いので注意が必要。 [ライトハウス]

恋人 (▶男女どちらにも用い、肉体関係を暗示することが多い) [スーパーアンカー]

関連して、複数形の **lovers** は、伝統的には恋人同士、愛人同士という意味であったが、現在では、同性愛者のカップル、愛人同士という意味に移り変わって来ている、という指摘も検討するべきであろう。⁽⁸⁾

7. a number of ~

a number of ~ という成句が、(1)「いくつかの」と(2)「たくさん」の二義にありまいであることはよく知られている。私は以前、編集委員のアルトハウス先生やボリンジャー博士から、普通は(2) ("noticeable number") の意味で解釈すると聞いていたので、「(2) の意味で用いるのが普通」という注記を書き込んだ (『ライトハウス英和辞典』第2版、1990年)。しかしながら、その後の調査では、イルソン博士がこの句 **a number (of)** は、普通 'some (unspecified) number' の意味であるとの注意を受けた。次の用例などは典型的である。

In his latest book Dr. Ilson makes 50 assertions, of which *a number* are true and *a number* are false.

さらには、アルジオ博士にこの句をアンケート調査をしていただき、次のような結果をいただいた。⁽⁹⁾

	MANY	SEVERAL
<i>A number of</i> ants were crawling up the wall.	2 5	1 3
I have <i>a number of</i> questions.	1 9	1 9
<i>A number of</i> sheep were browsing on the hill.	1 4	2 4
He listed <i>a number of</i> problems.	1 2	2 6

アリのように多数の集団で行動する場合には「たくさん」の読みが優先するであろうし、それほど多くの新入社員がいるとは考えにくい場合には「いくらか」の読みが普通である。このように文脈次第でどちらの意味になるのかが決まるわけだが (some と many の間を意味すると考えてよい)、全般的には (1) の「いくつ」が通常の読みであって、普通の解釈と考えるのがよい。

[注記]

(1) Think of it this way : if you doff your duds to pose while descending a staircase for a tasteful painting done by a respected artist, then you're *nude*. If a bunch of paparazzi suddenly burst into through the studio door and take your picture without permission, you are suddenly *naked*. と説明されるとよく分かるだろう。

(2) 日本語の慣用句でもこのように新旧2つの意味が存在し、コミュニケーション上の齟齬が生じる場合があることを (例 : 煮え湯を飲まされる、情けは人のためならず)、本来の意味と本来とは異なる意味の生じた背景を世論調査結果とともに動画で示した、文化庁「ことばの食堂へようこそ」(全20話) (http://www.bunkago.jp/kokugo_nihongo/kokugo_sisaku/kotoba_shokudo) が興味深い。

(3) 1991年8月17日付私信による。

(4) 1991年9月の調査。

(5) G.B.Miller, "Quaripartite Structures," *Proverbium* 14(1969)、George A. Lundberg, "The Semantics of Proverbs," *Etc.* Spring(1958)、Barbara Kirschenblatt-Gimblet, "Toward a Theory of Proverb Meaning" *Proverbium* 22 (1973)、Roger D.Abrahams, "A Sociolinguistic Approach to Proverbs" *Midwestern Journal of Language and Folklore* 1(1975)

(6) 現在、国内は118-500 (£1.99) 通話1分について£2.46、海外は118-505 (£1.90) 通話1分につき£3.84であることを、ブリティッシュカウンシルよりご教示いただいた。記して感謝したい。

(7) John Simpson(OED 編者)のご教示によれば、1936年の Mencken の *American Language* に **joke town** の言及があり、当時はアメリカの Oshkosh やイギリスの Ashby-de-la-Zouche といったおかしな名前の町に使われた。'beautiful down-town Burbank'なるキャッチフレーズが生まれたのはアメリカのコメディショー *Saturday Night Live* であった。ここから'beautiful down-town X'という表現が生まれた。

(8) Cynthia A.Barnhart (WBD 編集者) の指摘。

(9) 1992年12月の調査。協力いただいたのは学部4年生、大学院生、教授など計38人。

[参考文献]

G.Howard, *A Guide to Good English in the 1980s*. Phelam Books. 1985.

八幡成人 (1996) 「現代英語の語法観察」『研究紀要』第21号, 島根県立松江南高等学校.

八幡成人 (1998) 「現代英語の語法観察 (2)」『研究紀要』第22号, 島根県立松江

南高等学校.

八幡成人(2010)「現代英語の語法観察(3)」『研究紀要』第44号, 島根県立松江北高等学校.

八幡成人活動一覧

2015年3月現在

- 1975 語法ファイル「海辺の花」『現代英語教育』9(研究社).
- 1975 語法ファイル「お医者さんごっこ」『現代英語教育』12(研究社).
- 1976 語法ファイル「けげんな顔つきをして」『現代英語教育』2(研究社).
- 1976 「I forgot mailing the letter」QB119 『英語教育』2(大修館).
- 1976 語法ファイル「心臓の音」『現代英語教育』4(研究社).
- 1977 読者のページ「lie like a Persian rug」『現代英語教育』1(研究社).
- 1977 "A Study of English Idioms : Some Problems in the Analysis of English Idioms"
島根大学教育学部卒業論文.
- 1977 「聴診器 八幡成人先生」『平高新聞』第81号.
- 1978 「英和辞典の諸問題～若干の実例を通して」『研究紀要』第14号(島根県高等学校教育研究連合会).
- 1978 「イディオムの変形的ふるまいについて」『研修』第11号(島根県立平田高等学校).
- 1978 読者のページ「hold one's horse?」『現代英語教育』4(研究社).
- 1978 「英語教育一研究と実践 英和辞典の諸問題～若干の実例を通して」『英語教育』10(大修館).
- 1979 「英語教育一研究と実践 イディオムの変形的ふるまいについて」『英語教育』2(大修館).
- 1979 「英和辞典と語法研究」『英語教育』4(開隆堂) 中村英語教育賞受賞論文.
- 1979 「学習英文法の再検討～*Oliver's Story*の英語を通して」『研究紀要』第15号(島根県高等学校教育研究連合会).
- 1979 「英語語法ノート」『研修』第12号(島根県立平田高等学校).
- 1979 読者のページ「メタファーの解釈について～安井・三宅論争に関して」『現代英語教育』7(研究社).
- 1979 「Forget + V-ing の語法とその問題点」島根県高等学校英語研究会総会口頭発表
11月8日 島根県立松江北高等学校.
- 1980 「LATELY と RECENTLY は同義か」『英語教育』2(大修館).
- 1980 「語法雑考(1) count sheep」『現代英語教育』6(研究社).
- 1980 「Forget + V-ing の語法とその問題点」『英語教育』10(大修館).
- 1980 「語法雑考(2) bag ladies」『現代英語教育』10(研究社).
- 1980 「なぜ渡部昇一なのか 『知的生活の方法』を薦める」『図書館報』No.1(島根県立平田高等学校).
- 1981 「語法雑考(3) inside job/outside job」『現代英語教育』1(研究社).
- 1981 「語法雑考(4) Funny Uncle」『現代英語教育』2(研究社).

- 1981 「Dwight L.Bolinger ～思想と業績」『研修』第14号（島根県立平田高等学校）.
- 1981 「英語を読むということ～その文化的背景について」『研究紀要』第17号（島根県高等学校教育研究連合会）.
- 1981 「語法雑考（5）Ovaltine」『現代英語教育』5（研究社）.
- 1981 「語法雑考（6）That makes two of us」『現代英語教育』11（研究社）.
- 1981 「アーサー・ヘイリーと私」「江高ライブラリー」.
- 1982 「英語研究—私の方法—辞書と語法研究」『現代英語教育』1（研究社）.
- 1982 「Considerably の語法」*Lexicon*, No.11（岩崎研究会）.
- 1982 「再び Forget + V-ing の語法とその問題点」『英語教育』3（大修館）.
- 1983 連載「英和辞典のウソ（1）～（9）」『高校通信東書英語』No.124～No.134（東京書籍）1983年～1984年連載.
- 1983 「誤った英語を教えてはいないか？」『高校英語教育』No.22（三省堂）.
- 1983 「基礎の基礎の辞書指導—実業高校からの報告」『英語教育』12（大修館）.
- 1984 「英語研究法」『現代英語教育』創刊20周年記念号（研究社）.
- 1984 （執筆）『ライトハウス英和辞典』（初版）（研究社）[主に語法と類義語を担当].
- 1984 『英語の辞書指導～『ライトハウス英和辞典』を使って』（研究社）.
- 1984 「After all の問題点について」『英語教育』2（大修館）.
- 1986 「再び forget + V-ing について」『英語教育』2（大修館）.
- 1986 「Increasingly の語法」『研究紀要』第14号（島根県立松江南高等学校）.
- 1986 「こんな本はいかが？」「読書」第42号 島根県立松江南高等学校.
- 1987 （執筆）『新リトル英和辞典』（研究社）.
- 1987 （執筆協力）安藤貞雄『基礎と完成 新英文法』（数研出版）.
- 1987 「「先着順に」の英語」『英語教育』6（大修館）.
- 1988 「食い違う辞書の記述2題」『高校通信東書英語』No.176（東京書籍）.
- 1988 「返信用封筒」『英語青年』3（研究社）.
- 1988 「語法ノート April Fool's Day」*Lexicon*, No.17（岩崎研究会）.
- 1988 「ロビン・クック『感染』を読む」「あこのころこのごろ私の読んだ本」松江南高等学校図書館.
- 1989 「語法ノート cheap price は誤りか？」*Lexicon*, No.18（岩崎研究会）.
- 1990 連載「ボリンジャー博士の語法診断（1）～（12）」『現代英語教育』4～31990～1991年連載.
- 1990 「辞書の記述と英語研究」『高英研』No.29（島根県高等学校英語教育研究会）.
- 1990 （共著）「*Longman Dictionary of Contemporary English (New Edition)* の分析」*Lexicon*, No.19（岩崎研究会）.
- 1990 （編集委員）『ライトハウス英和辞典』（第2版）（研究社）.
- 1990 「プラスα教材としてのガーフィールド」（研究社、非売品）.
- 1991 『ライトハウス英和の活用法』（研究社）.
- 1992 「受験英語3題」『高英研』No.31（島根県高等学校英語教育研究会）.
- 1992 『オックスフォード現代英語イディオム辞典』紹介 『オックスフォード辞書のカタログ』（オックスフォード大学出版局）.

- 1993 「QB as の前の名詞について」 福村虎治郎氏への反論 『英語教育』 9 (大修館).
- 1994 (編集委員) 『グリーンライトハウス英和辞典』 (研究社).
- 1994 「継続は力なり」 「松江南高新聞」 第65号.
- 1994 「スクールレポート2 松江南高校」 『高校入試予想問題集 I 島根県版』 進研ゼミ中学講座 中3 9月号臨時増刊号
- 1994 「センター試験解法のポイント」 『3年進路ニュース』 No.67 松江南高等学校進路指導部.
- 1995 「バレーボール通信」 第1号～第6号 平成7年高校総体松江地区推進委員会.
- 1995 「英語初任者研修」 講話 10月25日 松江教育センター.
- 1995 (編集委員) 『カレッジライトハウス英和辞典』 (研究社).
- 1996 「和製英語あれこれ」 「図書館だより」 No.6 松江南高等学校図書館.
- 1996 「現代英語の語法観察」 『研究紀要』 第21号 (島根県立松江南高等学校).
- 1996 「ライトハウスQ&A」 『現代英語教育』 6 (研究社).
- 1996 読者のページ「チョークの数え方(2)」 『現代英語教育』 11 (研究社).
- 1996 「英語教師の語法研究」 「[中・高] 英語科教育講座」 講義 10月9日 松江教育センター.
- 1996 (編集委員) 『ライトハウス英和辞典』 第3版 (研究社).
- 1997 (共著) *Lighthouse English 1* (高等学校英語検定教科書) (研究社).
- 1997 「ライトハウスQ&A」 『現代英語教育』 2 (研究社).
- 1997 『平成10年受験用 入試問題研究⑩慶應義塾大学[商学部]』 (増進会出版).
- 1997 「ライトハウスQ&A」 『現代英語教育』 9 (研究社).
- 1997 「ライトハウスQ&A」 『現代英語教育』 12 (研究社).
- 1998 「ライトハウスQ&A」 『現代英語教育』 1 (研究社).
- 1998 「本誌9月号「ライトハウスQ&A」記事の補足」 『現代英語教育』 2 (研究社).
- 1998 (田尻悟郎氏と共著) 『英語総合演習 入門編』 (研究社).
- 1998 『英語総合演習 基礎編』 (研究社).
- 1998 『英語総合演習 標準編』 (研究社).
- 1998 『英語総合演習 応用編』 (研究社).
- 1998 「現代英語の語法観察(2)」 『研究紀要』 第22号 (島根県立松江南高等学校).
- 1998 『速読英単語 入門編』 執筆協力 (Z会).
- 1999 「賢者は歴史に学ぶ」 『合格・わが道』 No.23 島根県立大田高等学校進路指導部.
- 1999 『DOLPHIN 英語基礎総合演習』 2 BASIC (研究社).
- 1999 (田尻悟郎氏と共著) 『DOLPHIN 英語基礎総合演習』 1 入門編 (研究社).
- 1999 「私の勉強法」 『高英研』 No.38 (島根県高等学校英語研究会).
- 2000 「成功するために」 「学校だより」 第57号 島根県立大田高等学校.
- 2000 『『できるんだよ、君たちは』』 『合格・わが道』 No.24 島根県立大田高等学校進路指導部.
- 2000 講演「高等学校の進路指導状況と大学に期待すること」 ベネッセ主催「2001年度大学進学説明会」 (大学入試広報担当者・教授) 5月10日 ホテル一畑.

- 2000 「語法ノートから」「啓林」高英編 No.148 (啓林館).
- 2000 『センター試験・二次試験これだけやればOK』 島根県立大田高等学校英語科編 自費出版.
- 2001 (編集委員)『ルミナス英和辞典』(研究社).
- 2001 「夢の実現へ向けて」『合格・わが道』No.25 島根県立大田高等学校進路指導部.
- 2001 『3年間を見通した、クラス担任による学習・進路指導展開』島根県立大田高等学校進路指導部.
- 2001 『英語センター試験・二次試験対策本』2001年度版 島根県立大田高等学校英語科編 自費出版.
- 2001 「わが校の英語クラブ 島根県立大田高等学校」『啓林』(高英編)No.155.
- 2002 『センター試験・二次試験の英語対策はこれだっ!』3訂版 島根県立津和野高等学校 自費出版.
- 2003 「語法の実態～ライトハウスの舞台裏」『高英研』No.42 (島根県高等学校英語教育研究会).
- 2003 誌上大公開「「名人」教師の技」「生徒に辞書を引かせるには」『英語教育』1 (大修館).
- 2003 誌上大公開「「名人」教師の技」「プリント作成のコツ」『英語教育』1 (大修館).
- 2003 『英語センター試験&二次試験の虎の巻』4訂版 島根県立津和野高等学校.
- 2003 (編集委員)『ライトハウス英和辞典』第4版 (研究社).
- 2004 『英語センター試験・二次対策』改訂5版 島根県立津和野高等学校英語科編.
- 2004 「発音・アクセント・カタカナ語頻出語テープ」ALT Lynn Janik 吹き込み 島根県立津和野高等学校.
- 2005 (共著)『2006センター試験直前対策問題集1 英語』(河合出版).
- 2005 (共著)『センター試験必勝トレーニング英語』(東京出版).
- 2005 『センター試験対策本』改訂6版 自費出版.
- 2005 「センター試験に向けて体力作り」『英語教育』10月増刊号 (大修館).
- 2005 「「わかった」と言わせるプリント作り」『英語教育』10月増刊号 (大修館).
- 2005 「確かな英語学力の育成 (センター試験編)」第30回島根県高英研研究大会第5分科会口頭発表 11月18日 島根県立大社高等学校.
- 2006 「「引き出し」は多いほうがよい」「あかやま」No.173 松江北高校学校だより.
- 2006 「確かな英語力の育成 (センター試験へ向けての指導)」『高英研』No.45 島根県高等学校英語教育研究会.
- 2007 (編集委員)『ライトハウス英和辞典』第5版 (研究社).
- 2007 「できない理由を探すな!」「松江北高新聞」第18号.
- 2008 「英語の学力をいかにつけるか?」岡山県英語指導研究会講演講師 8月1日 岡山ベネッセ中四国支社.
- 2008 「受験とライトハウス英和辞典」 研究社パンフレット (非売品).
- 2008 『2009進研 [センター試験] 対策英語重要問題演習英語 (筆記)』(ランズ).
- 2008 松江市英語教育推進委員会委員 (~2011年).

- 2008 『2008年版センター英語対策本 改訂7版』自費出版.
- 2009 「授業力向上セミナー」講演講師 ベネッセ・ラーンズ・アルク・大修館共催
8月29日 大阪中之島セントラルタワー17F.
- 2009 『2009年版センター試験英語対策本 with 二次試験対策 全面改訂8版』自費出版.
- 2009 書評 日臺滋之『中学英語辞書の使い方ハンドブック』(明治図書)『英語教育』7月号(大修館).
- 2009 「生徒に英語の学力をつけるために」『高英研』No.48 島根県高等学校英語教育研究会.
- 2009 『進研 [センター試験] 対策英語重要問題演習英語 (筆記) 2010』(ラーンズ).
- 2009 「ボリンジャー先生との出会い〜一冊の本との本との巡り会い」「あかやま」No.269 松江北高校学校だより.
- 2010 「現代英語の語法観察(3)」『研究紀要』第44号 島根県立松江北高等学校.
- 2010 「松江北高散策」『松江北高図書館報』第98号.
- 2010 「あとがき」『松江北高図書館報』第98号.
- 2010 『2010年度英語センター試験対策コンパクト版』改訂9版 自費出版.
- 2010 講演「生徒に英語の学力をつけるために」ベネッセ英語指導研究会 愛媛県今治市 7月30日.
- 2011 『英単語はアタマ・オナカ・シッポで攻略だ!』自費出版.
- 2011 「センター試験の発音・アクセント問題に出題される語は決まっているのか?」『研究紀要』第45号 島根県立松江北高等学校.
- 2011 『進研 [センター試験] 対策英語重要問題演習英語 (筆記) 2012』(ラーンズ).
- 2011 『進研 [センター試験] 対策英語重要問題演習英語 (リスニング)』(ラーンズ).
- 2011 学問探究講座「英語のなぜ?」 3月15日~17日 島根県立松江北高等学校.
- 2011 『2012英語センター対策本』改訂10版 自費出版.
- 2011 「師との出会い」「あかやま」No.233 松江北高校学校だより.
- 2011 『進研 WINSTEP 英語リスニング1』(ラーンズ) (執筆協力) 一部流用.
- 2011 「あとがき」『松江北高図書館報』第99号.
- 2011 『Reading High-Level』改訂版(ラーンズ) 執筆協力.
- 2011 「チーム八ちゃん」立ち上げ 英語指導資料「ダウンロードサイト」・ブログ開始(<https://teamhacchan.wordpress.com/>).
- 2012 『進研 [センター試験] 対策英語重要問題演習英語 (筆記) 2013』(ラーンズ).
- 2012 (Nadine Wright と共著)「日本の高校生の間違いやすい英語」『研究紀要』第46号 島根県立松江北高等学校.
- 2012 『2013進研 [センター試験] 対策英語重要問題演習英語 (筆記)』(ラーンズ).
- 2012 「あとがき」『松江北高図書館報』第100号.
- 2012 しまね学力向上プロジェクト教科リーダー養成事業指導教員.
- 2012 第98回全国図書館大会島根大会運営委員 10月25日~26日.

- 2012 『英語センター試験対策本2013』第11版 自費出版.
- 2012 『2013進研 [センター試験] 直前演習 英語 (筆記)』別冊付録協力 (ラーンズ).
- 2012 講演「新学習指導要領に基づく高校英文法指導法研究会」Z会 10月7日 熊本チサンホテル.
- 2012 (編集委員)『ライトハウス英和辞典』第6版 (研究社).
- 2012 鳥取県米子東高等学校・専攻科講演 10月28日.
- 2012 (監修)『センター試験 英語 過去問題集 文法・語法頻出17項目の演習 TREND 17』(ピアソン桐原).
- 2012 『英語センター試験対策本2013』第2刷 (ピアソン桐原) [無料配布].
- 2013 (共同執筆)「学校図書館の可能性を探る」『図書館雑誌』1.
- 2013 「将来を見通した語彙指導」しまね学力向上プロジェクト教科リーダー養成事業 研修成果報告会口頭発表 2月20日 島根県立江津高等学校.
- 2013 『2014進研 [センター試験] 対策英語重要問題演習英語 (筆記)』(ラーンズ).
- 2013 ラーンズ営業・編集部講演 3月21日 岡山ベネッセ本社.
- 2013 『Take the First Step 高校英語への橋渡し教材』島根県立松江北高等学校英語科 (編).
- 2013 『平成24年度第98回全国図書館大会島根大会記録』全国図書館大会実行委員会事務局.
- 2013 「受験指導のオリジナル教材を作るには」『英語教育』5月号 (大修館).
- 2013 広島県ハイレベル学習合同合宿授業 8月7日 江田島 広島県教育委員会主催.
- 2013 『発音・アクセント問題の攻略法』 自費出版.
- 2013 「八ちゃん単語」進研学参フェイスブックページにてセンター試験前日まで連載 (ラーンズ) 2013年9月～2014年1月.
- 2013 『発音・アクセント問題の攻略法 附属CD』(2枚組) ALT Jane Humphrey 吹き込み 島根県立松江北高等学校英語科.
- 2013 「英語教員としての歩み」『先輩からの言葉～平成25年度教科チーム要請事業に寄せて～』島根県教育庁高校教育課.
- 2013 第28回中国地区学校図書館研究大会浜田大会 研究授業・指導助言者 11月8日 島根県立浜田商業高等学校.
- 2013 「あとがき」『松江北高図書館報』第101号.
- 2014 『進研 [センター試験] 対策英語重要問題演習英語 (筆記) 2015』(ラーンズ).
- 2014 『進研 [センター試験] 対策英語重要問題演習英語 (リスニング)』改訂版 (ラーンズ).
- 2014 鳥取県立米子東高等学校 講演・授業 6月8日.
- 2014 『2015進研 [センター試験] 直前演習 英語 (筆記)』(ラーンズ).
- 2014 『2015進研 [センター試験] 直前演習 英語 (リスニング)』(ラーンズ).

- 2014 『2015年度センター試験対策本～勉強の仕方』改訂12版 自費出版.
- 2015 『進研 [センター試験] 対策英語重要問題演習英語 (筆記) 2016』(ラーンズ).